

# スロベニア情勢(2011年8月:月報)

在スロベニア日本国大使館

2011年9月

## 1. 内政

●9-10日、会計監査院及び腐敗防止委員会が内務省の賃貸取引における不正を指摘したことを受け、クレサル内務相が大臣職辞任を発表。

●15日、バユク元首相が、脳卒中により死去。

●25日、パホル首相は9月初旬に5名の閣僚人事を国民議会に提出し、右閣僚指名に関する投票を、政府の信任投票と結びつけると発表。

## 2. 経済

●25日、クリジャニッチ財務相は、2012年の財政赤字をGDP比3.25%まで削減する計画を発表。

●31日、国家統計局が第2四半期(4-6月期)の季節調整済み実質GDPは、前年比1%の成長と発表。

## 3. インフラ

●18日、ショシュタン火力発電所の監査役会は、6号機建設費用を13億ユーロとする投資計画書を承認。

●24日、会計監査院はクルシュコ原発「廃炉のための基金」の資金徴収条件や監督改善を勧告。

## 4. 外交

●2日、首相府は、中東和平プロセス支持を改めて表明する声明を発出。

●30日、メルケル独首相がスロベニアを訪問。

## 1. 内政

### (1)クレサル内務相が辞任

9日及び10日、会計監査院及び腐敗防止委員会が内務省の賃貸取引における不正を指摘したことを受け、クレサル内務相(与党第2党の自由民主党党首)は大臣職を辞任する旨発表した。クレサル氏は、自由民主党の党首としての信任投票も求めるとしていたが、24日、自由民主党は同氏を党首として全会一致で信任した。

### (2)バユク元首相が死去

15日、元首相で保守政党「新スロベニア(NSi)」の元党首のアンドレイ・バユク氏が、脳卒中により死去した。バユク氏は、2000年5月から同年末まで、議会で不信任を受けたドルノウシェク首相の後に政権を率いた他、2004~8年までのヤンシャ政権時には、財務相を務めた。

### (3)5大臣指名及び政府信任投票、9月実施へ

25日、パホル首相は9月初旬に(連立を離脱したザレス党所属大臣の辞任及びクレサル内務相の辞任を受けた)5名の閣僚人事を国民議会に提出し、右閣僚指名に関する投票を、政府の信任投票と結びつけると発表した。また、現政権が国民議会の信任を得た場合にも、早期選挙実施に関する協議は開始されると述べた。

一方、与党第1党の社会民主党幹部は、26日の会合で、政府が信任を得た場合にも早期選挙実施するとのパホル首相(社会民主党党首)の提案に理解を示さなかった。

## 2. 経済

### (1) コペル港でコンテナクレーン業者がストライキ

コペル港のクレーン業者の一部が勤務体制に反対して行っていたストライキが、5日終了した。コペル港によると、8日間のストライキで貨物運送が遅滞し、3百万ユーロの損失が生じたが、パホル首相は同損失を憂慮するとともに、労働者の権利と競争力のバランスを取るよう、港側に要求した。

### (2) 国内商業銀行のストレステストが実施される

2日、中央銀行「Banka Slovenije」は、全商業銀行のストレステストを行った結果、各行がリスク（景気後退と国家債務危機）に対処できるだけの自己資本を有すると発表した。同テストは、欧州銀行監督当局（EBA）のガイドラインに基づいて実施され、国内各行の自己資本比率は9.9～11.1%、中核的自己資本比率は7.1～8.6%であった。

### (3) アドリア航空、救済へ

12日、財政難に陥っている国内唯一の航空会社「アドリア航空」は、経費削減及び航路の一部廃止を発表した。31日、同社株主総会は銀行債務の持ち株への変換及び政府の50百万ユーロの救済措置による資本注入を承認した（銀行側とは変換される債務額については合意に至っていない）。

### (4) オーストリア国境のトンネル通過を巡り論争

オーストリアとの国境を結ぶ Karavanke トンネルにつき、オーストリア政府は、夏期週末の7.5トン以上の大型車輛の通過制限を決定していたが、スロベニアの運送業者がこれに反対、同トンネルを封鎖すると発表していた。19日、運輸省は両国が、スロベニア運送業者が週末夜間の3回の特定時に輸送団を組んで同トンネルを通過できることに合意したと発表した。

### (5) 経済相、2012年の更なる予算削減を発表

25日、クリジャニッチ財務相は、政府が財政赤字を2012年のGDP比3.25%まで削減することを計画していると発表、既存の予算案ではユーロ安定パクトに沿った財政再建が不可能な為、2012年補正予算案を策定し、10月1日までの同案の可決を期待すると述べた。

### (6) 第2四半期GDP成長率は1%

31日、スロベニア国家統計局が第2四半期（4－6月期）GDP速報値を発表、4－6月期の季節調整済み実質GDPは、前年比1%の成長と、前期に比べ半減した。スロベニアの成長は、ユーロ圏平均（ユーロ圏の第2四半期成長率平均値は1.7%）に遅れをとっており、建設業の総生産の落ち込み（前年比24%減、1996年レベル）が主要な停滞要因となった。国内消費は前年比2.1%減少、総資本は9.2%縮小した。

### (7) 8月発表の大手企業の半期決算報告

最大手銀行「NLB」：純利益90万ユーロ（前年同期は3460万ユーロの損失）、総資産174.3億ユーロ（2010年末より3%減）

小売大手「Mercator」：総売上14.2億ユーロ（前年比6.1%増）、純利益1852万ユーロ（前年比4.9%増）

石油販売大手「Petrol」：総売上15億ユーロ（前年比17%増）、純利益2100万ユーロ（前年比6%減）

国有電気通信会社「Telekom Slovenije」：総売上4億230万ユーロ（前年比3%減）、純利益2510万ユーロ（前年の約5倍）

コペル港運営管理「Luka Koper」：総売上7170万ユーロ（前年比15%増）、純利益340万ユーロ（前年比37%減）

### 3. インフラ

#### (1) ショシュタン火力発電所6号機の建設費用増加

18日、ショシュタン火力発電所の監査役会は、6号機新設の為に投資計画書を承認した。同計画書は6号機建設費用を13億ユーロ(これまでより1億ユーロ増)とするもの。同発電所側は、政府が欧州開発銀行からの借款供与に必要な政府保証を与えない可能性を憂慮している。

#### (2) 会計監査院が国内インフラ法制の欠陥を指摘

18日、会計監査院は2009～10年の公共インフラの経営において政府が交通インフラの経営を制

度的・能率的に規制する法的枠組み作りを怠ったとする旨の意見書を発出した。同院は特に高速道路の国から高速道路運営会社「DARS」への所有権移転に関する法律が、資金提供関係を不透明にさせたと指摘している。

#### (3) クルシュコ原発「廃炉基金」に監督改善勧告

24日、会計監査院は、クルシュコ原発の「廃炉のための基金」について、政府が2006～9年の間、同基金の管理規則づくりを行わなかったこと等を指摘し、資金徴収条件やその監督を改善する必要がある旨勧告した。

### 4. 外交

#### (1) 外務省、コソボ情勢に関する声明を発表

2日、外務省はコソボ北部で緊張が続いていることを受け、セルビア及びコソボに対し国際社会の代表が継続して職務に専念できるよう、更なる対立を招く行動を抑えるよう要請する声明を発出した。また、同省は、EUが支援するプリシュティナ・ベオグラード間対話の枠組みの中での解決が図られるべきと指摘した。

#### (2) 首相府、中東和平プロセスへの支持を表明

2日、首相府は、スロベニアは中東和平プロセス及び、二国家の平和共存が中東地域の安定化に貢献することを認識した上でのパレスチナ及びイスラエルの二国家解決に向けての努力を支持する旨の声明を発出した(同声明は、最大野党民主党が、パレスチナの国家承認をめぐるパホル首相とジュボガル外相の見解の違いへの驚きを表明したことを受けて発出された)。

#### (3) 外務省、伊ガスターミナル建設に遺憾表明

国境を越えた環境への影響が懸念されていた伊トリエステ湾沖のガス貯蔵施設とパイプライン建設に関し、イタリア環境省が7月末に建設許可を発出したことに対し、5日、スロベニア外務省は驚きと強い遺憾の意を表明する声明を発出した。

#### (4) クロアチアとの国境仲裁、裁判官選定過程進む

18日、ザラル法相はハーグの常設仲裁裁判所裁判官のセコレツ氏が、クロアチアとの国境に係る仲裁裁判におけるスロベニアの裁判官候補であると述べた(セコレツ氏は今後大統領からの任命、国民議会の承認を得る必要がある。仲裁裁判の裁判官は5名で、両国から1名ずつ、残る3人は、欧州委員会が作成するリストから両国が選任する。 )。

(5) 外務省、リビアの最新情勢を歓迎

スロベニア外務省は、22日、21日のリビア反政府派によるトリポリ市進攻を大きな進展とし、カダフィに対し、改めて退陣を求めると共に、トリポリ市及びその他の都市におけるさらなる流血を防ぐよう呼び掛ける内容の声明を発出した。

(6) 外務省、シリアに関する人権理事会決議を歓迎

23日、スロベニア外務省は、シリアにおける反政府デモ弾圧を非難すると共に人権侵害についての

徹底調査を命じた国連人権理事会の決議を歓迎する旨の声明を発出した。

(7) メルケル独首相がスロベニアを訪問

30日、メルケル独首相がスロベニアを訪問し、トゥルク大統領、パホル首相、ヤンシャ民主党党首との会談等を行った。パホル首相との会談では、ユーロ危機及び西バルカン諸国問題への対応を含む両国間の協力強化が合意された。

要人往来(2011年8月)

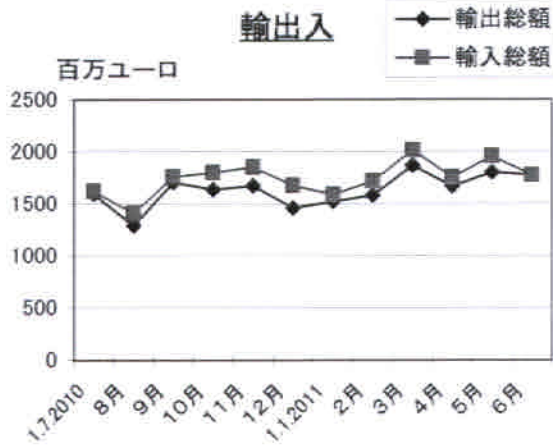
(☆はスロベニア要人の外国訪問、★は外国要人のスロベニア訪問)

|    |     | 要人往来            | 成果等                                                                                 |
|----|-----|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 16 | (火) | ☆パホル首相、オーストリア訪問 | スロベニア系少数民族が多く居住するケルンテン州を訪問、ファイマン・オーストリア首相と共に、2か国語併記の道路標識第1号の設置記念式典に出席した。            |
| 27 | (土) | ☆パホル首相、セルビア訪問   | タディッチ大統領とのワーキング・ディナーに出席。                                                            |
| 30 | (火) | ★メルケル独首相(実務訪問)  | トウルク大統領、パホル首相、ヤンシャ民主党党首との会談等を行った。パホル首相との会談では、ユーロ危機及び西バルカン諸国問題への対応を含む両国間の協力強化が合意された。 |

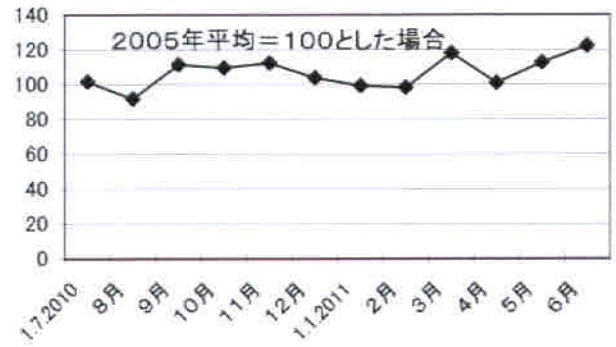
## 経済指標(2011年6月)

(出典:統計局)

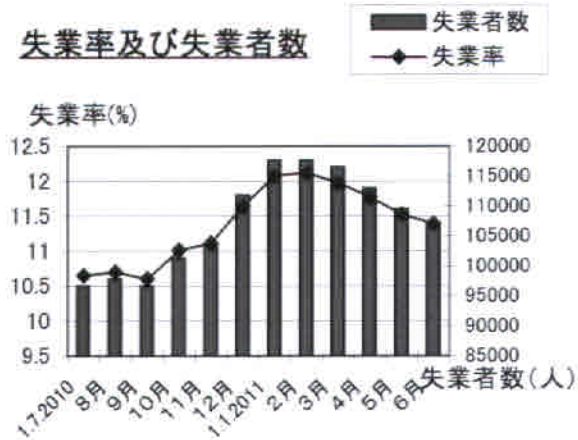
### 輸出入



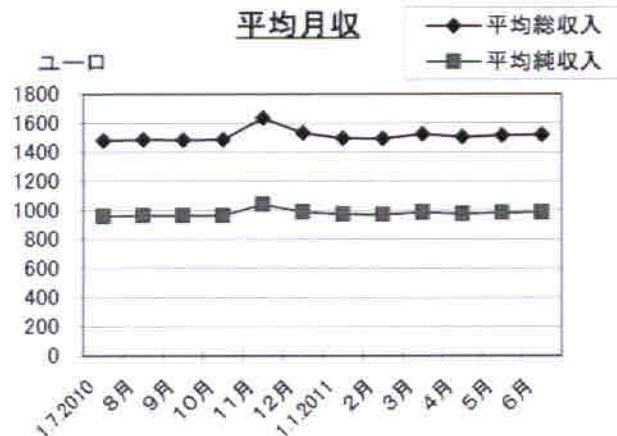
### 工業生産指数



### 失業率及び失業者数



### 平均月収



### インフレ率(前月比成長率、前年同月比成長率)

